

# おうち

第2号

2003.3



表紙絵

中山 美ちゃん(4才)  
題:「おうち」

ご飯ができたのにお父さんが  
なかなかお風呂から出てこない  
のでお母さんは怒っている。  
わたしは妹のるみと、  
遊んでいる。

対 談 こども、しつけ徒然

栃木県総合教育センター 鈴木良治所長vs  
戸祭保育園 山口京子園長

論 説 本当に大切なこと - 時代の変化としつけ -

宇都宮大学助教授 青柳 宏

トピック 気になる自分のしつけへの周りの評価

掲 示 板 読者から、県からのお知らせ

アンケート 「よみかかせ」について

栃木県幼児教育センター



# 対談

## こども しつけ徒然

つれ づれ

### 対談者

栃木県総合教育センター所長 鈴木良治  
戸祭保育園園長 山口京子

#### 鈴木 良治

栃木県総合教育センター所長。県立高校校長、県教育委員会高校教育課長、教育次長などを歴任する。幼児教育センターは総合教育センターの中にあります。



幼児期から学童期にかけての教育の質の向上のため、今年度開設された、「栃木県幼児教育センター」がある、栃木県総合教育センター鈴木良治所長と「栃木県幼・保・小連携推進会議」委員の戸祭保育園山口京子園長にしつけや子どもについて対談をしていただきました。

#### 幼児教育センターについて

**鈴木：**栃木県教育委員会では、幼児期は子どもの成長にとって大変重要な時期であると考えまして、「栃木県幼児教育センター」を昨年4月にオープンしました。

この家庭教育広報誌「おうち」も、栃木県幼児教育センターが編集していますが、保護者の方に役立つ情報を提供していきたいと考えています。

山口先生は「幼児教育センター」の生みの親でもある「栃木県幼・保・小連携推進会議」の委員さんで保育園の園長さんでもいらっしゃいます。保育園でのお仕事は、子どもたちの育ちが見えるということでやりがいのあることなのでしょうね。

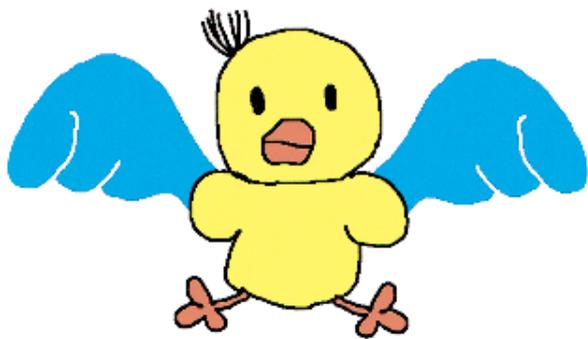
**山口：**私は、母の代からの保育園を引き継ぎ、保育に携わっておりますが、その中で保護者の方より先にお子さんの成長の場面に立ち会うことがあります。たとえば、歩けなかった子が歩いたり、話さなかった子が二語文を話したり、発表会を契機に自信がついて子どもが変わったりするとか、保

育年数が長いだけに、いろいろな成長が見られてやりがいのある仕事ですが、それだけに、子どもにとって良い保育環境を与える事ができたのか、いつも自分に問いかけています。

#### 子どもは集団の中で育つ

**鈴木：**昔は、集団の中で子どもがみようみまねでいろいろな事を覚えていったし、近所のおじいちゃん、おばあちゃんなどから叱られながら教えられていました。今は、そういう体験も少なくなっていますから、集団の中で子どもを育てるという事は大切ですね。

**山口：**そうですね。集団の中で育つという事は大切ですね。食事や排泄、衣服の脱着にしても、上の子を見ながら模倣していく部分が大きいと思います。集団中にはできたら認め、ほめてくれるおにいちゃん、おねえちゃんもいますから、子ども達がほめたりほめられたりしながらお互いに育ち合っていくのではないのでしょうか。



山口 京子

宇都宮にある戸祭保育園の園長。平成11年度より「栃木県幼稚園・保育所・小学校連携推進会議」委員を務める。

## 親は子どもの手本

**鈴木：**子どもが周りを見て育つという事は、親を見て育つという事でもありますね。娘が小さかった頃、乗って遊べる車を買ってやりましたら、おなかに手を当てながら運転をしているんです。よく考えましたら、私の癖だったのです。まさに、子どもは親の鏡ですね。親がよい模範を示していないと、と思いました。

**山口：**子どもは保育者の言葉づかいやしぐさなどをしっかり見ていて、上手にまねをしていることがありますね。

## 重要な体験の積み重ね

**鈴木：**最近、子どもたちの規範意識が低下したといわれていますが、幼児期から道徳性はきちんと培わなければいけませんね。

**山口：**そうですね。生命の尊さなどを理解する意味でも、例えば飼育していた小鳥の死の場面に立ち合わせることも大切ですね。そうすることで、お世話はきちんとしなくてはと、子どもたち自身で気づいていきます。お花を飾った小さなお葬式で、命の大切さを体験として、年齢なりに理解していけるとと思います。そういう積み重ねが保育の中で大切と考えます。

**鈴木：**昔でしたら、「ワシントンと桜の木」のお話を読んで正直であることの価値を知ったりしましたが、そういった取り組みはなされているのですか？

**山口：**はい。今は映像での働きかけが子どもたちの生活の中かなり入り過ぎていますから、そういった一方通行の映像は園では避けて、読み聞かせとか紙芝居などで、子どもの心に響き、感動を

与えるお話をするようにしています。年齢なりに小さくても理解し受け入れ楽しみにしているようです。

**鈴木：**テレビがなかったころは、ラジオを聴き、自分なりにイメージを膨らませて、翌日友達と話し合ったりしたものです。今の子は、話なども映像で受け取り、イメージを膨らますような場面が少ないのではないですか？

**山口：**想像する場面は少ないと思います。だからこそ、生の声で語り、動かない絵からいろいろ空想してイメージを膨らませる実践を多くしています。御家庭でも、ストーリーや絵など吟味して与えることが大切かと思います。

## 生活習慣を身につけるには

**鈴木：**しつけというのは本当に難しいと思いますが、たとえば生活習慣を身に付けるのにはどういう配慮をなさっていますか。

**山口：**場面を捉えて働きかけます。その時々で社会のルールなどを教えることがしつけともいえるのではないのでしょうか。朝のあいさつに始まり、食事や排泄など具体的な場面で、その子が今、身につけることは何かを見極めながらやっています。覚える時期にきちんと教え、その後は、その子の体験を見守り援助することがしつけともいえるのではないのでしょうか。スプーンから箸へ移行する段階ならば保育者が隣に座って配慮することか。生活の中で、体験するのを見守り援助することも広い意味でしつけで、ただ単純に教えることだけではないとも思います。

**鈴木：**家庭においては、まず、できたらほめるのが基本ですね。でもなかなか難しいものです。ほかの子と比べてあせってしまったりする事があり



ます。反対に、自由にやらせたいという親もいます。これは放任につながってしまいますね。

**山口**：そうですね。園では遊びなども選ぶ自由がありますが、そこにはルールがあります。それを無視すると秩序感がなくなり放任になってしまいます。逆に、自由がないと自主性が育たないとも言われますが、そのためには自由の中でもルールが守れるような系統だった手順が必要で、それらを繰り返すことで秩序感が育ち自主性も育つと考えています。家庭では、ほかの子と比較しすぎるのはよくないと思います。その子を丸ごと受け入れて、いいところが出せる場面を沢山つくってあげることが大切です。問題行動などがある場合は大きくなっていても抱いて受け止めてあげることも必要ではないでしょうか。心が素直に正常に発達するのは、最終的には家庭なんです、ということをいつも保護者に伝えていきます。

### 悩んだときには相談が有効

**鈴木**：もし、子育てでお母さんが悩んでしまったようなときには誰でもいいから相談する事が大切ですよ。気軽なサークル等で、ほかの方もそうなんだと気づく事は安堵感があっていいですね。

**山口**：私の園では、入園されていないお母さん方にもおしゃべりの場を開放しています。お母さん同士で解決するのが理想です。初めてのお子さんの時は、皆さん手探りですから。

### しつけに対するポリシー

**鈴木**：子どもに信頼される親になる事が大事ですね。そして、子どもが日本人として一人前の社会人になれるよう、期待をどこかで伝えていく必要があるとおもいます。いい意味で、親の期待、負担にならない程度の期待をもって陰で子どもをバックアップできるといいと思います。親も努力する姿を見せ、子ども努力するように育てていく事が大切だと思います。

**山口**：個性をつぶさず、子どもを丸ごと受け入れながら、社会性を身に付ける、お互いの育ちを温かく見守る事です。楽しいと思える子育てができるとよいと思います。

## トピック

### しつけ

**Q** 周りの評価が気になり必要以上に厳しくしてしまったり、叱ることができなかつたりしてしまいます。

**A** 親は常に、わが子が他人から後ろ指をさされないような人間になって欲しいと思っています。子育て真っ最中の若いお父さんお母さんにとって、目の前で手を焼かせる我が子がこれからの社会の中で自立していくことの責任を思うと、本当に心配になってしまうことでしょうか。

周りからの我が子への評価は、親である自分への評価でもありますので「躰が甘いのではないだろうか？厳しすぎるのではないだろうか？」と心が揺れ動くことは無理もないことだと思います。

子育ては親が子どもとどれだけ正面から向き合いエネルギーを使ったかによって決まってくると言われます。

子育てに「完全」はありません、試行錯誤しながらやっていくことだと思います。一生懸命子どもと向き合って生活することは、とりもなおさず親自身も成長することになります。

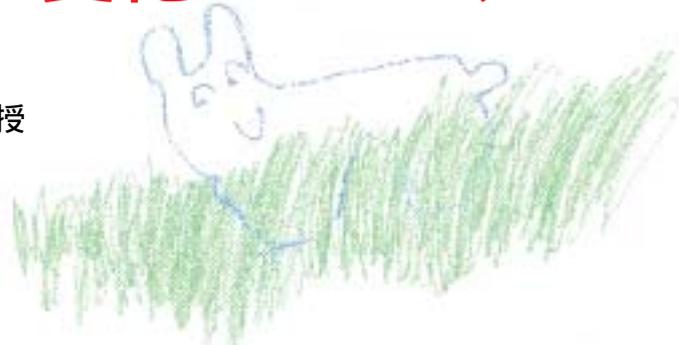
将来我が子が「困った大人」にならないためにも、親は子どもに恥ずかしくない後ろ姿を示せるよう心がけたいものです。



# 本当に大切なこと - 時代の変化としつけ -

宇都宮大学教育学部助教授

青 柳 宏



## はじめに

『おうち 創刊号』を開くと、現代の（特に3～5歳の幼児を育てている）保護者のみなさんの「しつけ」についての色々な悩みが見えてきます。その中でも、「自分の常識が、世の中の常識なのか分からない」、「価値観が多様化していて、どういしつけがよいのか分からない」、「時代の変化とともに、身につけなければいけないことが変化してきている」等は現代の社会に特有の、また多くの保護者に共通の悩みです。

一言で言えば、この変化していく社会の中で子どもをどうしつければよいのか、という悩みです。この悩みは、確かに切実なものだと思うのですが、ただ私たちは、今、この悩みにある意味で振り回されてしまっていないでしょうか？今の時代だからこそ、振り回されず、子育て・しつけに関わって、本当に大切なことは何なのか、ということを一一人がじっくり考えてみる時間をもつことが必要です。

## 1. 「しつけ」は何のためにするのか

しつけに関して、本当に大切なことは何なのかを考える時、私は、そもそも「しつけ」は何のためにするのか、ということに改めて考えてみる必要があると思います。

さて改めて、いったい「しつけ」は何のためにするのでしょうか？

少し話を具体的にすれば、例えば「おはよう」、「おやすみなさい」あるいは「どうぞ」、「ありがとう」、「ごめんなさい」等々のあいさつ・お礼等に関する「しつけ」は何のためにするのでしょうか。もちろん、これには、あいさつやお礼の言葉がきちんと言えないと、相手に不愉快な思いをさせてしまう、またその結果として相手に嫌われてしまうからといった答えがすぐ思い浮かびます。そして、こうした答えはもちろん正しいのですが、より積極的に「しつけ」は何のためにするのかを考えると次のような答えを発見することが出来ます。

つまり、「しつけ」とは、子どもが今よりも、もっともっと「人」や「物事」にかかわっていくように、するものであると。

「おはよう」という言葉を、朝、出会った人にも気持ちよく言える子は、その人と関わる「きっかけ」をつくることが出来ます。ある人との「関わり」が生まれれば、その人のすることに興味をもったりとか、さらにその人に何か教えてもらったりとか、その人特有の優しさに気づいたりとか、そこから様々な学びの可能性が生まれてきます。

またもちろん、大人から見て「どうしてもしてはならないこと」は、きちんと子どもにしつける必要があります。ただこのこともまた、逆に、「してはならないこと」を守った上でなら、もっともっと色々な人や物事に関わっていくってよいのだということを感じられるようにする必要があります。「このことは、なぜしてはならないのか」という理由がそれなりに分かれれば、逆に「このことはしてもよい」という判断や自信につ

論  
説



青柳 宏

宇都宮大学教育学部助教授。専門は教育方法学。現在スクールカウンセラーとして活躍中。子どもを見る目には温かいものがある。



ながっていきます。(そして、そのためには、何よりも大人が丁寧にわかりやすい言葉で子どもに説明していくことが重要でしょう。)

このように考えるならば、あいさつの言葉に限らず、「しつけ」は、子どもがこの世の中で色々な人や物事と出会って自分の世界をふくらませていくために必要なものであると、改めてとらえ直すことができます。

## 2. 社会が変化しているからこそ

「しつけ」を通して、子どもが色々な人や物事に関わり、何かを持続性をもって学んでいく力を育てていくことは、まさに社会が変化しているからこそ求められる子育て(しつけ)のあり方だと言えるのではないのでしょうか。

なぜなら、これから子どもたちが育っていくさらに20年後、30年後の社会では、具体的にどんな技術や能力が求められることになるのかを正確に見通すことは出来ません。現在しかれている進学あるいは就職の道筋がまったく変わってしまうわけではないにしても、やがて社会に出たときには、これまで以上に柔軟で主体的な力が求められることに間違いはないでしょう。そして、そのような社会の中では、何よりも、自分の周囲で起きる出来事に興味をもち、またはじめはよく分からないことでも自信をもってじっくり腰をすえて取り組んでいけるような力をそなえていることが何よりも大事でしょう。

繰り返しますが、社会が変化しているからこそ、本当の意味で子どもの自発性を育てていくような「しつけ」が求められているのです。例えば「おやつ」あるいは「お昼寝の時間」一つとってみて

も、保護者の間では色々な方法(しつけ)があって、それこそ話しを聞けば聞くほど悩んでしまうでしょう。しかし要は、その方法が、上に述べてきたような力(自発性)を本当に育てているのかを、一人一人の保護者がまずは自分でじっくり見きわめていこうとすることが何より大切だと思います。その上で、他の保護者がどんなしつけをしているのか話を聞いたり、また実際他の子どもがどんな風に育っているのを見ながら、自分でよいと思うところは積極的に取り入れていけばよいと思うのです。

## 3. 「自然な甘え」からのスタート

私は現在、小、中学校で子どもたち(または保護者)のカウンセリングの仕事をしていますが、そこでしばしば感じるのは、(不登校の問題を含め)悩みを抱えている子どもたちには、親にたっぷり甘えた経験が薄いのではないかということです。「甘え」は、「しつけ」の対極にある言葉ですが、本当の自発性を子どもが獲得するためには、まずは「甘える」経験をたっぷりしている必要があります。他の人や物事に興味をもち、子どもなりに世の中に乗り出していくためには、心理的に親(保護者)にたっぷり甘えているという経験がどうしても必要です。自然な甘えの感情が充たされれば、外に目が向き、多少のトラブルがあってもそれを乗り越えていける心の安定感があるのです。この意味での「自然な甘え」が、子どもにとって自発性を獲得していく出発点であることを改めて確認しておきたいと思います。

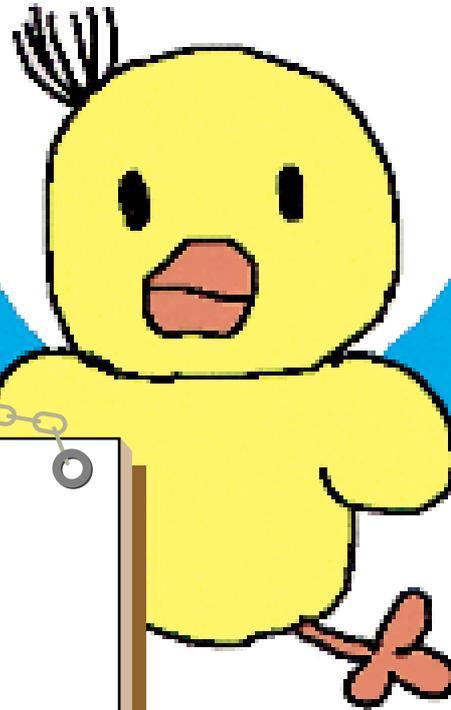
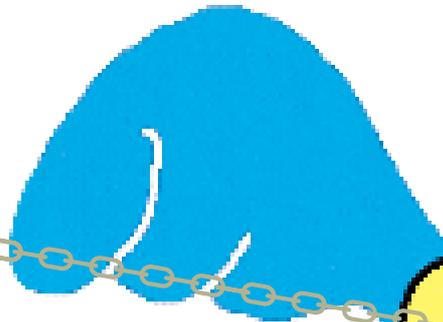
ただ、子どもの「自然な甘え」の感情を充たしてあげることで、過剰に甘やかしてしまうことの

# 論 説

区別をしていくことは本当に難しいことだと思います。しかしまた、その区別は無理だといって、ただただ甘やかしたり、逆にしつけ一辺倒の子育てになってしまっはいけないと思います。区別が難しくても、それが、これからの社会に乗り出していくための自発性を本当に育むためになっているのかを、やはり一人一人の保護者がまずは見極めようとする、その上で他の保護者、保育所・幼稚園の先生方に積極的に意見を求めることが大切だと思うのです。

最後に、上で一度述べた、言葉で説明すること

の大切さについてももう一度確認したいと思います。私は、日本の子育てには、どうも言葉で子どもに説明する（語る）という要素がまだまだ足りないように思っています。大人が気持ちを込めて、例えば「してはならない」理由について語れば、やがて子どもは「どうしても、したかった」理由を語れるようになるでしょう。大人の語りにも触発されて、子どもが語れるようになること、それが子どもの自発性を子ども自身が育てていく大きな支えになると思うのです。



## 掲示板

掲示板コーナーでは皆さんの意見を交流したり県からの情報を提供したりしていきます。身の回りの子どもにまつわる出来事や子どもについての御意見、御自身の体験談等をお寄せください。

### 《提 案》

「おうち」のテーマについて、「同時多発テロをきっかけに、子どもとテレビの関わり合いを考えるよ」になりました。飛行機がビルに突っ込む映像に当時3才の娘が怖がり、小学生の子どもたちも怖がったとあちらこちらで聞き、社会レベルで考えなければいけないと感じました。」  
フリーライターさんから

### 《質 問》

Q アンケートを見たとき「栃木県幼児教育センター」はどこかの出版会社が教材を販売する会社か分かりませんでした。「幼児教育センター」が信頼できる場所なのか分かりません。  
A 説明不足で失礼いたしました。幼児教育センター設立の背景は対談の中で説明しておりますのでお読みください。ちなみに、設置者は栃木県です。幼児教育関連の情報が多し昨今、家庭教育の基礎基本の情報を提供していくために「おうち」は生まれました。





## お知らせ

### とちぎテレビから

幼児教育センターの家庭教育に関する番組が次のように放映されますのでご覧ください。

5月10日《土》17:30~17:50

再放送 5月12日《月》12:10~12:30

### 募 集

表紙や誌面に載せる子どもの絵を募集します。幼稚園、保育所を通して、または直接幼児教育センターあて送付してください。応募多数の際には選考させていただきます場合もあります。なお、応募作品については返却できませんのであらかじめ御了承ください。

子育てホットライン 028(665)8989

お子さんの育児、子育てについて不安になっていることはありませんか？お気軽にご相談ください。

「おうち」 第2号

発行日：平成15年3月1日

発行：栃木県教育委員会

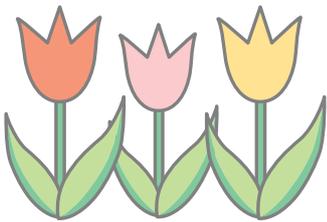
編集：栃木県幼児教育センター

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1,070

TEL028-665-7215 FAX028-665-7216

URL:<http://www.edu-c.pref.tochigi.jp>

e-mail [youkyou@tochigi-c.ed.jp](mailto:youkyou@tochigi-c.ed.jp)



キ リ ト リ

## アンケート

## 「よみきかせ」

1 お子さんが好きなお話(本)を教えてください。分かれば、なぜそのお話が好きかも教えてください。

(お話： \_\_\_\_\_ なぜ好きか： \_\_\_\_\_ )

2 お宅の近くで、読みきかせをしているところや、グループがあったら教えてください。

( \_\_\_\_\_ )

3 本などを読んであげるのはいつで、その際、工夫している点や気をつけている点があったら教えてください。

(いつ： \_\_\_\_\_ 工夫： \_\_\_\_\_ )

「おうち」に関する自由意見や掲示板等で交流したい意見がありましたらお書きください。

Large empty box for free comments.

ありがとうございました。幼稚園、保育所の先生にお渡しください。

のらじろ

のらじろ